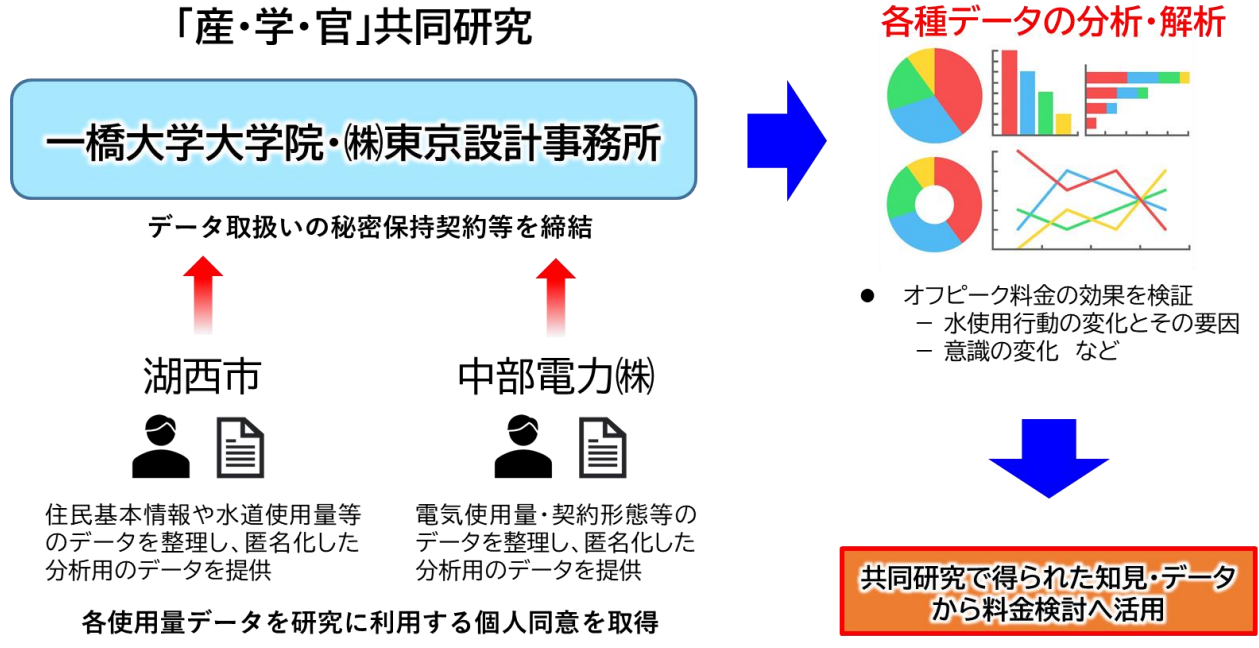


# 弾力的な水道料金における使用水量等への影響について

## 1. 研究概要

一橋大学を中心に、水道・電気の使用量データや世帯数等の各種データを整理し、水道使用水量、利用者の使用行動・意識の変化や要因などを分析

### 「産・学・官」共同研究



◎ 研究代表者：大瀧 友里奈 一橋大学大学院教授



水道使用量の「見える化」が人々の水使用行動への変化や、水道使用のディスアグリゲーションを研究。  
また、水道技術研究センターのA-smartプロジェクトに学識者として参加し、水道スマートメータのデータの利活用を検討。

<経歴>  
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻および学際情報学府修士課程修了  
東京大学大学院学際情報学府 博士課程修了、博士(学際情報学)  
東京大学大学院総合研究センター 特任助教、准教授を経て、一橋大学大学院社会学研究科 教授(現在に至る)

研究協力者：大貫 祐太郎 日本学術振興会特別研究員



情報の表示方法の違いが、人の意思決定にどのような影響を与えるかについて、アンケート調査、行動実験、計算機シミュレーションを利用した研究を実施。

<経歴>  
2020年4月-2022年3月 学術振興会特別研究員 (DC2, 東京大学)  
2021年10月-2022年3月 学術専門職員(東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構)  
2022年3月 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 広域システム科学系 博士課程修了、博士(学術)  
2022年4月-現在に至る 学術振興会特別研究員(PD, 一橋大学)

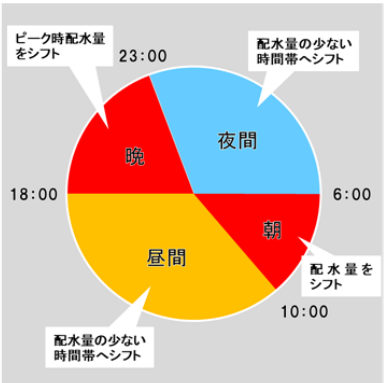
# 弾力的な水道料金における使用水量等への影響について

## 2. 期待する効果

利用者の使用行動の変化や要因等を分析し、最適な料金設定から配水量の平準化を促すことで、効率的な水道供給や水道施設のコンパクト化（ダウンサイジング・スペックダウン）が期待できます。

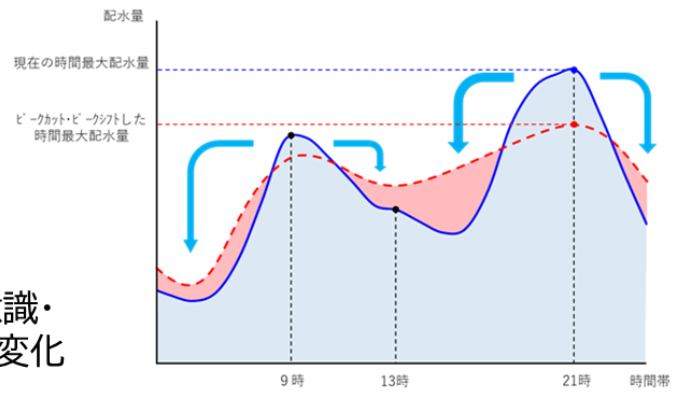
### 時間帯別料金体系 ロジック

#### 新たな料金負担

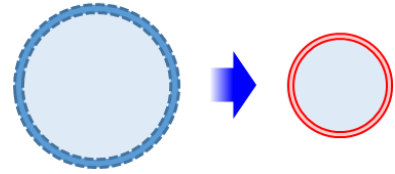


利用者の意識・生活行動に変化

#### 配水量を平準化



#### ダウンサイジング



#### スペックダウン



ピーク時の水道使用をなるべくオフピーク時へ促し、配水量を平準化することで水道施設のコンパクト化につながり、将来の更新投資額の抑制が期待できます